



2017年11月7日

各位

会社名 株式会社Ubicomホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 青木 正之
 (コード番号：3937 東証マザーズ)
 問合せ先 執行役員コーポレート本部長 豊福 政博
 (TEL. 03-5803-7339)

平成30年3月期第2四半期（累計）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成29年8月9日に公表いたしました平成30年3月期第2四半期連結累計期間の連結業績予想、および平成29年5月12日に公表いたしました平成30年3月期第2四半期累計期間の個別業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成30年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,543	99	111	58	5.26
今回修正予想(B)	1,545	135	156	95	8.59
増減額(B - A)	2	35	45	36	
増減率(%)	0.1	36.1	40.2	63.3	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成29年3月期第2四半期)	1,447	128	173	105	10.21

(注) 当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株、平成29年4月1日付で普通株式1株につき2株、さらに平成29年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。平成29年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(修正の理由)

当第2四半期におけるグローバル事業の開発案件の受注の堅調な推移と、為替相場の円高基調での推移による営業費用の圧縮、メディカル事業の子会社エーアイエスにおける主力パッケージソフトウェアをはじめとする製品・サービスの売上の堅調な推移と、スクラップアンドビルドで実施した選択と集中による効率的な経営資源の活用、プロジェクト毎の徹底した収益管理およびコスト削減への取り組みによる経費削減の効果により、当第2四半期（累計）の売上高は前回予想を2百万円上回る1,545百万円（0.1%増）、営業利益は前回予想を35百万円上回る135百万円（36.1%増）、経常利益は前回予想を45百万円上回る156百万円（40.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は前回予想を36百万円上回る95百万円（63.3%増）となる見込みです。

2. 平成30年3月期第2四半期（累計）個別業績予想数値の修正（平成29年4月1日～平成29年9月30日）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	369	△113	△91	△8.28
今回修正予想(B)	470	△153	△115	△10.36
増減額(B - A)	100	△40	△23	
増減率(%)	27.1	-	-	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成29年3月期第2四半期)	403	△117	△118	△11.49

(注) 当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株、平成29年4月1日付で普通株式1株につき2株、さらに平成29年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。平成29年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(修正の理由)

当第2四半期（累計）における個別の業績は、グローバル事業の開発案件の受注の堅調な推移により、売上高は当初予想を100百万円上回る470百万円（27.1%増）となる見込みです。なお、コーポレートガバナンス、決算・開示業務、IR・広報業務への人材投資に伴う支出、並びに株主総会関連費用、会計監査の支出が予想を上回ったことから、経常損失は同業績予想を40百万円上回る153百万円、四半期純損失は同業績予想を23百万円上回る115百万円となる見込みです。

なお、通期の業績予想につきましては、現時点では平成29年5月12日公表の連結および個別業績予想数値を据え置くことといたしますが、今後の業績推移に応じて業績予想の修正が必要となった場合には速やかに開示いたします。

(注) 上記の業績予想数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上